

## 保育園年長児のクラス会議

山田千理 (新潟)

**要旨：** 保育園の年長児を対象に、アドラー心理学に基づくクラス会議を行った。できるだけ全員一致をめざして話し合った結果、子どもたちがさまざまな場面で自発的にものごとを決めるようになった。

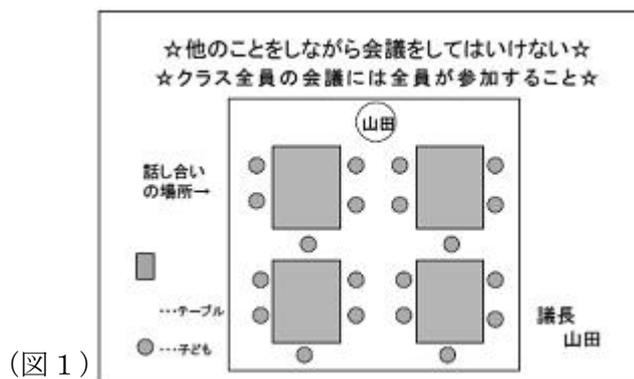
**キーワード：** アドラー心理学、保育園児、クラス会議、多数決、全員一致

### はじめに

私は、参加メンバーが保育士限定の保育パッセージを受講しました。7章の家族会議を保育園でのクラス会議に置き換えて実践しました。クラス会議の対象は、私が昨年度受け持った、年長児20人です。議題は、給食のリクエストメニューについてです。年長さんが食べたいメニューを決めても良い日があり、なにを食べるかをみんなで考えました。

### クラス会議のはじまり

クラス会議は、パッセージテキスト32-L『家族で話し合う』を元にして進めました。まず、期日を決めて会議をすると、記載されています(パッセージ P32-1)。そのため、朝の自由遊び後のお集まりの時に、「今日はリクエストメニューを決めたいので、おもちゃの片付けとトイレが終わったら、話し合いたいと思います。どんなメニューがいいか考えておいてください。」と、子ども達に伝えました。話し合いは、このようにしました(図1)。四つの四角はテーブルで、普段はテーブルごとで給食を食べたり、当番活動をしったりしています。その周りの丸は子ども達で、それぞれ場所が決まっています。このように座ると、他のことをしながら会議に参加することはないと思います(パッセージ P32-2)。全員がトイレから帰って来ることを待って会議を始めました(パッセージ P32-4)。



## チームでの話し合い

まずは、挙手をして食べたい物を何でも言ってもらいました。

●エビフライ                      ●カツカレー  
●れんこんの天ぷら      ●いかフライ                      ●チキン  
などなど、他にもたくさん出ました。

このときのエピソードとして、れんこんの天ぷらが苦手な子が2人いたため、「これはなしにする？」と提案したところ、ふみとくんが「ダメ」と自己主張をしました。ちなみにふみとくんはずっと「チキンがいい」と言っていました。どうしてダメなのか聞いても「わからない」と言っていました。このとき私は、「ちょっと邪魔しないでよ！」と少し身体が固くなってイラッとしました。そんなふみとくんと私を見かねた他の先生が「みんなが食べたいのがいいんじゃない？」とアドバイスをしてくれて、ふみとくんもしぶしぶOKをしてくれました。

では、クラス会議に戻ります。次に、たくさんのメニュー候補が出たため、制限時間2分で1チームが一つずつ食べたいものを出す事にしました。各チームごとで楽しそうに意見をまとめていました。ちなみに、各チームごとに発言力のある男の子がいるため、どのチームもその男の子達の意見だったのではないかと思います。2分間で決めることが出来ました。そして、

●エビフライ                      ●カツカレー  
●いかフライ                      ●チキン

の4つが残りました。

チームごとの話し合いはここまでにして、昼食後、さらに絞ることにしました。話し合いが長引かないように気を付けました（パセージ P32-3）。

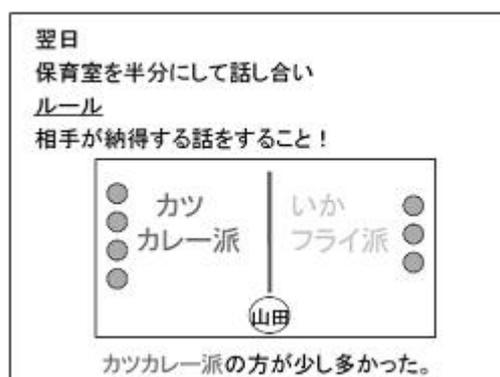
## 給食の先生と相談

子ども達と話し合う前のことです。加茂市内の保育園の給食には、しばらくエビフライが出ていません。そのため、作ることが出来るのか園長と給食の先生に確認してみました。すると、「ずっと出ていないから出来るかどうかやってみよう。栄養士さんに聞いてみて、やってみよう！」と、園長と給食の先生から意見がでました。

昼食後、子ども達に「エビフライをずっとしてなかったからやってみよう！いいかな？」と確認してみたところ、「いいよ！」と嬉しそうな反応が返って来ました。これで、エビフライに決定しました。しかし、もし、エビフライを作る許可が降りなかった時のために、第2希望を決める事にしました。第2希望は、子ども達が出してくれた、他の3つのメニューから決める事にしました。ここからさらに、2つに絞りたいと思ったのですが、私も子ども達も話し合いをすることに少し疲れてきたため多数決に頼ることにしました（パセージ P32-6）。すると、チキンがいいという子は3人だけでした。この3人に、もしよかったら違うメニューにしてもらいたいと、話したところ、「他のでもいいよ！」と言ってくれました。この日の話し合いはここまでにして、翌日、カツカレーかいかフライのどちらにするかを会議で決める事を子ども達に伝えました。

意見を出してみよう！

翌日、このように保育室を半分にして、子ども達の食べたい方に行ってもらいました（図2）。



（図2）

どちらの意見なのか子どもたちの目で見分けるようにする為です。話し合う前に、子ども達にはこの会議のルールとして、相手が納得する話をして下さいと、伝えました。友達と向かい合って話す事はあまりないため、子ども達は恥ずかしそうにしながらも、「なにをするの？」とワクワクしている様子でした。分かれたところ、カツカレー派の方が、少し多かったです。では、子どもたちに意見を聞いてみました。子どもたちからは、意見のある子から手を挙げて発言をしてもらいました。

まず、カツカレー派のみなさんにどうしてカツカレーがいいのか聞いてみました。

「サクサクしておいしい」

「カレーのたれがカツにかかっておいしい」

「お肉がおいしい」

などの意見がでました。

次に、いかフライ派のみなさんに意見を聞きました。

「サクサクしておいしい」

「プリプリしておいしい」

「やわらかい」

などの意見がでました。

お互いの意見を聞いて、中間ジャッジをしました。「気持ちが変わったお友達は、動いてください」と、話したところ、ずっと意見を言わずに参加していた男の子達がおもしろがってあちこちに動いていました。やっと落ち着いたなと思い、人数を数えると、なんといかフライが増えていました。そこで、子ども達にいかフライに移った理由を尋ねてみました。すると、最初に私に当てられた子は、ビックリした様子で固まっていました。その様子を見ていた他の子どもたちは、「あ、やっぱりカツカレーだったかなあ」と戻り、殆どの子が元の場所に戻っていました。

## 第2 希望を決める

最終ジャッジに向けて、もう一度子ども達に意見を聞いてみると、カツカレーが給食に出るのは、お誕生会など特別な日で、特別な日のデザートはだいたいゼリーのため、「ゼリーについて

くる」など、カツカレー派の子ども達ばかり意見を出していました。いかフライの子ども達に意見をいってもいいんだよといっても特に意見は出ませんでした。時間を掛けても仕方がないため、最終ジャッジに移ることにしました。

最終ジャッジは、なんとカツカレー派19人いかフライ派1人になりました。

ただ一人のいかフライ派の子は、こうきくんでした。こうきくんはずっといかフライ推しでいた男の子です。ひとり残ったこうきくんを見て、カツカレー派の子ども達は大喜びで、「どうしよう！あともうちょっとだ！」と大盛り上がり。こうきくんは、一人で黙って少し考えている様子でした。私がこうきくんの意見を聞いてみようかなと思った時です。なんと、こうきくんはすっと立ってカツカレー派に移りました。私も他の子ども達もビックリしましたが、「やったー！」と大喜びをしました。これで第2希望はカツカレーに決定しました。さて、こうきくんが動いてくれた理由はなんだったのでしょうか？ 本人に尋ねてみると、

「みんなが食べたそうだったから」

と、話してくれました。こうきくんがずっと「いかフライがいい」と言っていたことは私も知っていたため、動いてくれたこと、みんなの気持ちを受け入れてくれたことに、私も含めてみんなでありがとうと伝えました。

この話し合いのあとにおやつもみんなで考えました。しかし、またまた疲れたので多数決で決めました。フランという豪華なポッキーのお菓子がいいと言う子の人数が多く決まったのですが、「えー、嫌だあ。」と言う子もいました。意見を出し合い、話し合いで決めることで、友達と気持ちを共有出来る楽しさを子ども達が感じたのだなと思いました。クラス会議の実践の目標が達成出来た気がしました。

## 考察

クラス会議をしてみて感じたことです。まず、わざと少数派に行きたがる子がいました。とても重要な話し合いではないため仕方がないことなのかなと感じました。次に、意見が分かれたときについてです。その決め方をどうするのかの会議が必要なのかなと感じました。今回はありがたいことに全員一致でエビフライやカツカレーに決める事が出来ましたが、所々で多数決を使ってしまうました。パッセージテキスト P32-6には、「多数決になるなら、少数になった側の意見を反映できる工夫をしましょう。」とありますが、その工夫が出来ていなかったために、おやつを決める時に不満に思う子がいたのだなと感じました。最後に、ほとんどおなじ子が発言していたため、みんなが発言できる工夫をしていけたらなと感じました。ただ、保育園児の場合は、クラス会議の雰囲気を感じて、会議をしている場にみんなでいること、楽しい議題で、意見を言える、聴いてもらえる体験をすることが大切なのかなとも感じました。今回の発表にあたり、まとめてみての感想として、こうきくんの「みんなが食べたそうだったから」の発言については、パッセージを2回しか受けたことがないのでわからないのですが、もしかしたらこれが共同体感覚なのかなと思いました。

子ども達の印象に残ったようで、リクエストメニューの日をとても楽しみにしていました。ただ、「エビフライだっけ？ カツカレーだっけ？」とよくわからなくなる子もいましたが、エビフライをみんなで美味しく食べることができました。あんなに毎日リクエストメニューを楽しみにしている姿は見たことがありません。この会議の後も誕生会のお店屋さんごっこを決める時や、何をして遊ぶかななどをクラス会議で決めました。子ども達はそのたびにニコニコしながら「この前のリクエストメニューみたいだね」と言っていました。また、子ども達だけでも、会議で決め

ている姿がみられました。鬼ごっこでどの鬼ごっこをするのかを話し合っていて、議長を務めていた子のまとめ方がとても上手で感動しました。このクラスは、横のつながりがしっかりしていると思います。担任をされていてとても楽しかったです。このクラスの担任になれたことは私の誇りです。以上、クラス会議の実践報告を終わります。

## おわりに

今回、地方会場で発表させていただき、みなさまからたくさんの勇気づけのメッセージと笑顔をもらうことが出来ました。保育現場で実践していくことは、なかなか理解を得られなかったり、アドラー心理学の子育ての目標を見失ってしまったりと難しいことが多くあります。しかし、私には応援して下さる方がいっぱいいるのだと、感じる事が出来ました。まだまだ初心者の私ですが、勇気を持って保育をしていきたいです。

また、私の学びに付き合ってくれた20人の子ども達に感謝です。いつまでも友達を尊敬し、横の関係でいられる大人に成長して行って欲しいです。

この発表の後の昼食で、みなさんとカツカレーを食べたことも幸せな思い出です。ありがとうございました。

## 参考文献

野田俊作：Passage 1.3. 2005年4月1日1.3版

野田俊作：性格は変えられる. 2017年1月20日

第1版第2刷発行

## 更新履歴

2021年7月20日 アドレリアン掲載号より転載